

県研究主題

生きる力としての豊かな人間性をはぐくむ道徳教育の指導及び評価の工夫・改善

提案1

提案者 水野 哲弥（横須賀地区）

<研究主題>

道徳的価値を自ら生活の中で生かしていく児童を育成する道徳の授業

1 提案内容

研究主題から、「道徳的価値」を「よりよく生きようとする心、その心から生まれた行為」、「人間のよさ」と捉えた。「道徳的価値」＝「内容項目」ではなく、行為のもととなる心とした。

また、「自らの生活の中で生かしていく児童を育成する」から「道徳的実践力を育成していく」ことを重視した。

さらに、「道徳的実践力を育成する」ために、「資料の読みを中心とした道徳の授業」、「総合単元的道徳の授業」を2つの柱として取り組むようにした。

○「資料の読みを中心とした道徳の授業」

→ これまで教師が資料を読み取り、分析する際に、1つの内容項目に固執してしまうことで、子どもたちの発言を生かすことができていなかった。そこで、1つの資料に描かれている様々な内容項目に関わる道徳的な価値を、一人の人間として読み、分析していき、本時のねらいへとつなげるようにした。つまり、資料を表面的、表層的に読むのではなく、内面的、深層的なものまで関係づけながら読むようにした。

○「総合単元的道徳の授業」

→ 生活の中で児童が学んだ道徳的価値を生かしていくためには、ただ机上の学びとするのではなく、体験を伴った学びとなるように考えた。そこで、道徳の時間と、他教科や領域、家庭や地域社会での学習と関連をもたせ、総合単元的な指導を工夫していくことで、知識と体験を関係づけた心の教育を行っていくようにした。

(1) 実践報告 第4学年

主題名 「認め合える仲間」 1－(2) 2－(3)

資料名 サッカーワールドカップ日本対パラグアイ戦について（自作映像資料）

ねらい ○『お互いの認め合える』生き方に感動する。

○人間のよさに向かって一生懸命に生きていることが『認め合える仲間』を生んだことが分かる。

○『お互いに認め合えること』によってチーム力が高まることが分かる。

○人間のよさに向かって一生懸命に生きていることをお互いに認め合い、そのすばらしさを自覚し自己の生活に生かそうとする。

① 授業の流れ

導入・・・みんなが思ういいチームってどんなチームかな。

展開・・・どうして周りは駒野選手を責めなかったのだろう。

終末・・・駒野選手は今までにどんな努力をしていきたのか調べてきましょう。

## (2) 考察

- ① 授業後、「責めないようにしたい」という感想が多かった。資料を読む際に、さらに深層まで考えて資料を分析していたので、なぜそのような考えをもったかまで深めることができた。
- ② 総合単元的道徳の授業として、体験を伴うことで子どもたちは道徳的価値を実感できた。本時では特に体育との連携を図った。
- ③ 総合単元的に取り組むことは有効だが、指導案上で、他教科、領域のために行っているように見えてしまう。今後表記の仕方を工夫していきたい。

## 2 協議内容

### (1) 指導計画は年間計画をもとにしているのか？

→ 年間計画をもとにしているが、体験をもとに、より深まると思われる道徳の内容項目を重点的にからめるようにした。

### (2) 重点主題はどのように決めたのか？

→ 学校の児童の実態をもとにしている。本校にビオトープがあるが、最近停滞してきていることが問題になっており、「みんなの命」を重点主題の1つとした。また、児童の理解力が高いため、冷めた考え方をする児童が気になるので、「認め合う」「協力し合う」も重点主題とした。

### (3) 道徳的価値は、行為のもとになる「心、考え方」だけではなく、そのような心が生み出す行為のよさも含めて価値と考える。「二わのことり」だと、「みそさざい」の優しさがあることで、「二人の関係はよりよくなり、友情が深まっていく。互いにうれしい気持ちになる。」ということも含めて、道徳的価値と捉える。

### (4) 内容項目は、それぞれの内容項目を年間35時間の中で、しっかりと教えていくことで、道徳性は深まっていく。

## 3 まとめ

(1) 道徳の時間では教え込むのではなく、内面的自覚が大切である。

(2) 資料を表面的に読むのではなく、内面まで深く読み取ることも大切である。

(3) 児童の実態をもとに資料を読むことも大切で、児童がどこに共感するかを考えて読み取ることも忘れない。

(4) 自作映像資料を使用していたが、児童の関心も高く、実態に合った資料だった。

(5) 学級の児童を見取る際に、4年生の実態として、もっとマイナス面があるのではないかと。児童の問題意識、課題を事前の活動で見つめさせておくことで、望洋小学校の「自分の生活の中で生かす児童」につながっていくのではないかと。そして、つかんだ実態を授業の導入で自覚させることで本時がさらに深まっていくのではないかと。そのためにも、体験を伴っておくことは大切である。

## &lt;研究主題&gt;

豊かな心を育てる道徳教育をめざして

～自他を尊重し合い、よりよく生きようとする児童の育成～

## 1 提案内容

児童を取り巻く環境が変化してきた現代では、人と人との関わり方を学ぶ上で、学校教育の果たす役割は大きい。また、限られた人間関係ではうまくかかわっているが、より広く他者を理解し、ふれあいを深めようとする点が弱い児童の実態もある。そこで特に、人と人とのかかわりの中から学ぶことを重点的に扱い、児童が周囲の人を良く理解し、思いやる心を軸として、自他を尊重し合い、よりよく生きる実践力を高めていくことにより、豊かな心の育成につなげていきたいと考えた。

## (1) 具体的な手だて

## ① 計画的・継続的な指導

「道徳教育全体計画」や「各学年の年間指導計画」「学級における道徳指導計画」を作成し、指導内容の重点化を図り、継続的に繰り返し指導できるようにした。

## ② 道徳の時間における手だて

ア 自分の考えを表現するための工夫・・・道徳的価値に迫り、それを深めていくために、「書く」活動を取り入れ、話し合いの土台となる自分の考えをもてるようにした。

イ 話し合いの形態の工夫・・・ペアトークでは、確実に自分の考えを相手に話す機会を設定した。グループトークでは、より他者の考えをしっかりと聞くことに留意した。また、一斉の話し合いでは、児童同士の相互指名を取り入れた。

ウ 児童が主体的に取り組む、道徳の授業展開の工夫・・・導入時に CD を流し学習に入る、みんなで歌を歌う、事前にとったアンケートから、道徳的価値に照らした児童の実態を見つめる、などの工夫をした。展開では発問を吟味し、様々な考えを出し合えるようにした。終末では、教師の説話、歌の歌詞や詩、有名な人物の残した名言などを紹介し、余韻をもって授業を終えるようにした。

エ 道徳の時間の評価・・・授業中は、ねらいとする価値への理解や深まりを、発言、聞く態度の観察、記述等から見取り、授業後も他の学習活動の場面、友達との関わり方、日記、保護者との会話、ワークシートファイル、心のノートからの見取り等を記録し、児童の心の変容をつかみ、次の指導に生かしている。

## (2) 成果と課題

## ① 計画的・継続的な指導

作成した年間指導計画を確認し、見通しをもった指導ができた。重点化した価値項目を継続的に指導していくことで、児童の変容する姿を見取ることができた。今年度の全体計画や年間指導計画を振り返り、次年度へ生かせるようにすること、外部の人との関わりをもつ計画づくりが課題である。

## ② 道徳の時間における取組

- ・書く活動では、回を重ねるごとに自分の考えをより詳しく表現できるようになった。書く時間や量を見極めることが大切であると感じた。
- ・ペアトーク・グループトークは、話すことに抵抗のある児童には有効であった。児童が自ら進んで取り組むという点では課題が残った。

- ・道徳の授業展開が固定化しないように心がけ、体験的な活動や、経験したことを教材として扱うなど、多様な可能性を探りたい。
- ・授業以外の日常的な場面において交流を深めていくことが、道徳性の評価に繋がっていくので、大切にしたい。

## 2 協議内容

- (1) 全体計画・別葉を作成しても、活用できない現状があるが、別葉をどのように活用・指導にいかしているか。  
→ 重点化したい内容が、別葉を作成しながら見えてきたので、作成は意義のあることである  
と考える。別葉を見ながら意識して取り組むことができた。計画表に加筆・修正を加え、来  
年度に継続できる形にしたい。
- (2) 低学年では、思いはあるがうまく伝えられないことも多いので、ペアトークなどを積極的に  
取り入れたい。話すことはハードルが高いので、書くことから話すことへステップアップもし  
ていきたい。

## 3 まとめ

- (1) 全体指導計画・年間指導計画について  
道徳教育は学校教育の要である。学校教育全体でどのように指導していくかを明確にするため  
にも、全体指導計画・年間指導計画を作成することが求められる。そのためには、学校としての  
重点を全教員で共有することが大切である。年間指導計画は修正を加えながら、少しずつ何年か  
かけ、全教員で協力しながら作成するとよいのではないか。
- (2) 言語活動の充実について  
言語活動そのものはねらいではなく、教科の目標を達成するための手段である。実際、子ども  
たち自身が苦手と思っていることは「話すこと」より「聞くこと」である。まずは、相手の話を  
聞くことができるようにすることが大切である。また、道徳の授業では、何をねらって書かせる  
のか、何をねらって話し合わせるのか、明確にしておいてほしい。意図的・計画的な道徳の実践  
を行なってほしい。

## 4 グループ協議

- (1) 全体指導計画・年間指導計画について  
年間計画は作りっぱなしにならないよう、意識づけが大切である。定期的に年間指導計画の加  
筆・修正や、略案をファイリングしておき、次年度へ引き継ぐなどの工夫が必要である。また、  
地域の方々との連携も計画に組み込んでいきたい。
- (2) 言語活動の充実について  
日常生活で言語能力を身に付けていく必要がある。安心して話ができる雰囲気作りも大切であ  
る。自分の考えを明確にするためにも、書く活動を取り入れていきたい。

## 5 報告・まとめ

全体指導計画・年間指導計画の作成、言語活動の充実に加え、道徳の時間の評価では、道徳的価値  
の理解が自分とのかかわりの中でしっかりできていたか、自分自身をしっかりみつめていたかの視点  
で子どもたちをみとり、自らの指導を評価し、授業改善に取り組んでほしい。